

## 国際ワークショップ報告書発行にあたって

総合地球環境学研究所（地球研）は、地球環境問題の解決に向けた新しい学問「地球環境学」創出をめざし、2001年4月、京都市に設立されました。地球研では、地球環境問題を総合的に解明するため、「研究プロジェクト方式」を採用し、自然科学から社会科学にわたる多様な専門分野の研究者が、協力して5年間の研究活動を展開しています。2007年現在、20以上のプロジェクトが予備研究段階（FS）を含めて立ち上がっていますが、私たちの所属するプロジェクト「琵琶湖－淀川水系における流域管理モデルの構築（通称、琵琶湖－淀川プロジェクト）」は、2002年度に始まった地球研の最初の5つのプロジェクトのひとつで、2006年度が最終年度です（和田英太郎リーダー：2002年4月～2004年7月末、谷内茂雄リーダー：2004年8月～2007年3月末）。

琵琶湖－淀川プロジェクトでは、2006年9月23日・24日に、地球研講演室において、“Hierarchical Watershed Management for creation of a watershed as a public space”、日本語では「琵琶湖の流域管理から始める地球環境学」というタイトルの国際ワークショップを開催しました。このワークショップは、本プロジェクトの5年間の到達点と成果を関係者にご紹介するとともに、今後の発展課題、そして地球環境学について議論をおこなう「総括」との位置づけで企画しました。そのため、参加者は、本プロジェクト関係者をはじめ、コメンテータとして、滋賀県の行政担当者、土地改良区の関係者、大学・研究機関の研究者、内外の流域管理の研究者・コンサルタントの方々を招待し、プロジェクトメンバーによる発表の後、忌憚ないコメント・ご意見を願いました。

参加者との活発な議論の中で、本プロジェクトの最終的なとりまとめの上で、たいへん有益なコメントをいただくことができました。その内容は、ぜひ本報告書を読んでいただきたいと思います。このワークショップでの貴重な議論は、プロジェクトの最終成果報告書作成においても、大きな励ましとなりました。

参加された皆さまをはじめ、多くの方々にご協力をいただきました。あらためて、ここに感謝いたします。ありがとうございました。

2007年3月

総合地球環境学研究所

プロジェクト3-1「琵琶湖－淀川水系における流域管理モデルの構築」

プロジェクトリーダー 谷内茂雄